平成 27 年度　第 1 回学校関係者評価委員会議事録

日時：平成 27 年 7 月 17 日（金）18：00～19：15
場所：大阪医療福祉専門学校 10 階　1003 教室
司会：赤松事務局次長
書記：宇野事務部長
外部：三原　修(業界代表)・岡田　正次(高校代表)・田中　幸恵(近隣関係者代表)
　　釜木　伸一(保護者代表)・段上　靖治(業界・卒業生代表)
　　※欠席：湖崎　淳(業界代表)・橋本　昌浩（業界代表）
内部：橋本　勝信(常務理事)・猪尾　卓也(事務局長補佐)・赤松　滋子（事務局次長）
　　千葉　一雄(教務部長)・宇野　正明(事務部長)・岸村　厚志（教務副部長）
　　澄川　良一（教務部長補佐）
　　※欠席：武田　裕（学校長）

１．学校代表挨拶

（橋本常務理事）

本日は足元の悪い中、本校学校関係者評価委員会にご出席いただき誠に有難う御座います。
本委員会は、職業実践専門課程において、非常に重要な位置付けにあります。
今回いただいたご意見は PDCA サイクルに基づいて、一層の改善に努めていきたいと考えています。
何卒忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

２．本日のスケジュール確認及び各委員の紹介

（赤松事務局次長）

事務局次長より、配布資料の学校関係者評価委員会名簿により、各委員を紹介及び本会議のスケジュール確認を行った。

３．職業実践専門課程について

（猪尾事務局長補佐）

前回までの会議で理解頂いているかと思うが、今年になって大きな動きがあった。
職業実践専門課程においては 8 つの認定要件を満たしているかが問われる。
専門学校は、学校教育法による 1 条校に掲げている学校の中に含まれておらず、124 条に掲げる学校種に属するという長い歴史があるが､今年なって 2015 年 4 月新しい学校種を創設する話が上がってきた。
職業実践専門課程には、全国 2,870 校のうち 673 校が認定されている。このうちの約 1 割の学校が 2019 年から「専門職業大学」として、1 条校として位置づけられることが検討されているようだ。
本校も、1 条校を目指し、業界とのより一層の連携及び教員の実務及び指導力の向上に取り組んでいく所存であり、今後ともご指導を頂きたい。

４．平成 26 年度自己点検・自己評価報告について

(赤松事務局次長)

平成 26 年度本校が実施した自己点検・自己評価内容を、下記 11 項目についての概要を説明する。

・教育理念・目的・育成人材像について
・教育活動について

・教育成果について
・学生支援について
・教育環境について
・学生の募集と受け入れについて
・財務について
・法令等の遵守について
・社会貢献について
・国際交流について
以上 11 項目

５．平成 27 年度重点項目の説明について

(赤松事務局次長)

別紙重点目標と達成計画により、人材育成、業務効率化、ＦＤ、国家試験対策、退学率の低減、卒業生の社会的活躍及び評価の把握、施設・設備の更新計画、防災対策、学生募集、就職目標、学費未納対策の項目単位で目標と達成計画・取組方法について説明した。

特に課題となるのは、退学率の低減であり、学生一人一人をしっかり対応し、進路変更も視野に入れた指導を図っていくとの説明を行う。

６．本校の教育理念・教育システムについて

（千葉教務部長）

本校の取り組みについて

入学してくる学生は、スマホ・ゲーム世代でコミュニケーション力が低くメモの取れない学生が多い。本校では初年次教育に取組み学習技術の向上に努めている。

新入生からの取り組みとして 1 年次には生活学習習慣を身に付ける指導をしている。まさに一人ひとりを大切に寄り添う教育を実践している。

導入教育としての新入生研修では、自ら積極的に学べる学生を育てるために、グループワークを通じコミュニケーション能力向上を図った。

２年次には、主としてチーム医療に取組んでいる。学科の壁を越えて、視能訓練士学科、理学療法士学科、作業療法士学科の 3 学科の学生が 6 人 1 チームで課題に取り組んだ。PBL に基づいて互いの専門性を学び自分の専門職をより知る活動となっている。

業界との連携教育について

視能訓練士学科３年制課程では、今まで一方通行であったが、実習先と双方向の意見交換に基づいた指導を行っている。今年度の改善点としては、①カリキュラムの改定を行い学生は縦軸の理解だけでなく横軸での理解ができるように配慮した。②学生とバイザーの間に中間フィードバックを取り入れ問題点の明確化、情報の共有に努め、最終的にアウトカムを図っている。③実習指導者が学校の中に入り OSCE の評価者被検者となり、学校と業界との交流の機会を作った。

視能訓練士学科１年制は、6 月に医療機器メーカー訪問、8 月にコンタクトメーカーの講義実習を受講している。また実習前には医療面接や大学病院勤務者から研究指導を受講する機会を設けている。

言語聴覚士学科では、ケーススタディーとして事例検討等を積極的に実施した。

特徴ある教育の取り組みについて

本校の退学の状況については、1 年次での退学率が全体の 50%を占めている。退学防止対策としては、理学療法士学科では、課外活動の取組みとして１年次後期にウェルネス・スポーツ・福祉の 3 分野のどれかに興味を持つ学生が所属し、専門性の高い学習の機会を設けている。ウェルネスでは女性の産後の

サポート、スポーツではスポーツトレーナーの実践、福祉では地域包括ケアを学び自分たちで何か出来ることはないかを自らが考える機会とした。
診療情報管理士学科においては、福祉住環境コーディネーターの資格試験にも積極的にチャレンジした。
また課外活動としては、従来の体育会クラブ、文化会クラブに加え、学術クラブを設けた。運動器・超音波技術部、メディカルトレーナー部、ボランティア部など様々な活動を行っている。
就職サポートについて
就職フェアは今年、300 事業所の参加を得て、学生は約 4,000 名が参加した。人事担当者やリハビリのトップの話を聞く機会を得て、この中から約 35%の学生が就職に至っている。
同窓会活動について
昨年から全学科で同窓会を 1 本化した。例えば、理学療法士の仕事を 30 年できるかと考えた時も、20 年経験したらマネージャーとして働かなくてはならない時期が来ることを想定し、マネジメント教育も実施してきたが、今後は地域包括ケアシステムに対応すべき、ゼネラリストとしての教育も必要であると考える。ゼネラリスト研修では、①リハマネジメントについて②事業所の立ち上げ等についての内容の研修を行った。また、業界と連携した組織的教員研修も行った。これからは各職種のことだけでなく全体を見ていく教育が大切であると考える。
国際教育について
学園の教育理念のひとつに国際教育がある。上海中医薬大学との協力は 16 年の歴史がある。中国にもリハビリの専門職を作ろうとする動きがある。医師はいるがセラピストがいないため、日本で実際の専門職教育を受けに来ている。本校がその研修生を受け入れている。
英語スピーチコンテストというのも行っている。滋慶 49 校から応募があり、うち 6 名が海外研修に行ける。本校からは 2 名の学生がウエストフロリダ大学へ 5 週間の語学研修に行ってきた。また TOEFLE 講座もあり無料で受けられるシステムも整っている。

７．学校関係者評価シートの記入方法説明

（宇野事務部長）

11 大項目を 48 項目に分類した中項目を点検・評価項目を 4 段階で自己評価し、点検・評価項目総括と特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）を文書化した評価シートに基づいて各位評価いただき、来月半ばを目途に提出を依頼した。

８．質疑応答

(岡田委員)

大阪府立高校の学校長の立場として、高等学校の現状の基礎学力の低さに苦慮しており、貴校の入学前及び入学後の導入教育及び卒業研究発表会の取り組みに興味を持った。特に卒研については、研究に取り組む姿勢及び発表能力の向上に有益かと思われる。本校でも勉強の仕方、ノートの取り方から指導しているがなかなか成果に結びついていないのが現状である。
退学については、4%の目標設定が妥当なのかどうか？ 入学後のミスマッチを避けるためにも、適性や学習内容、学校のシステムなど、事前の本人理解が重要なように思う。また、入学後の経済状況の激変等による退学を防止する上でファイナンシャルアドバイザーの関わりは効果的なようにえる。ただ、生徒の退学時期や理由などを改めてトが効果的であるかがみえてくるような気もする。
また、カルテをもとにスクールカウンセラーやファイナンシャルアドバイザー、担任などがチームを組んで生徒一人ひとりの個別支援計画を作成し、友人の協力なども得ながら、学校全体のサポート体制を構築することが退学率の減少に繋がると考える。
授業アンケートを通して生徒の思いや陥りやすい傾向などを的確に把握するとともに、教員間で改善

に向けての自由な討議や効果的な指導方法についての共有などが進めば、生徒の満足度もさらに高まっていくように思う。また、アンケートの結果だけにこだわるのではなく、教授内容や教授法の優れた先生の授業を公開したり、教員自らが授業改善や教授法の向上を標榜される雰囲気を学校全体で創っていくことも大切と考える。

(田中委員)
保護士として地元の子供と接しているが、貴校の取り組みに感動を覚えた。本来家庭で行うべき教育を貴校がやっていると思う。貴校の理念の一つである人間教育は教育の根幹と思われる。
私が携わっている地元の夏祭りイベントに貴校の学生がボランティアとして協力いただいているが、非常に規律正しく、地元の信頼は非常に高いものがある。
今後も一人ひとりを大切にされる教育を続けていって欲しい。

(釜木委員)
保護者の立場として、しっかりした教育理念に共鳴し、入学させた経緯がある。授業評価実施の説明を聞き、アンケートから得られる意見は全てが正しいとは思えないが、学生目線に立った授業は、学生にとって非常に魅力的な授業となり、遣り甲斐を持たせることが出来き、退学者の減少に繋がると思う。また、国家試験対策・就職支援対策・学費サポートシステム等説明を聞き、より一層安心感を持つことが出来た。

(段上委員)
卒業生の立場として、現在講師として貴校の学生指導の一端を担っているが、是非とも業界と学校を連携させ即戦力の輩出に貢献できればと考えている。国際教育の理念により、英語学習にも積極的に取り組んでいる状況は非常に評価できるものです。業界で必要とされる「英語を話せる人材」を育成する為にも、学生自身が進んで勉学できる環境設定をこれからも絶え間なく築いて欲しいと思います。
また、私は同窓会会長の立場として、貴校と連携を図っているが、他校ではみられないような積極的な活動を行っており、積極的に業界へ発信できればと考えている。

(三原委員)
業界代表として、貴校と連携を取り業界の発展に努めてきているが、貴校はしっかりした教育理念を掲げ実践しており、素晴らしいと思っている。実習生として貴校の学生を受け入れているが、昨年の学校関係者評価委員会において、学校で学んでいるはずの基礎知識の内容が臨床現場で活かされていないのではないか？　基礎科目どうしの繋がりが乏しく、患者の現象が理解できていないのではないか？との指摘に対し、今回の発表を聞くところ、貴校は学内教育の場面でいかに臨床に即した内容で考えることができるかを課題として前向きに取り組んでおられると思う。今後一層貴校と連携を図り学生指導に当っていきたいと思う。修業年限に対応した教育到達レベルは明確に示されているが、学生御理解度の点では、さまざまな面が予測される。各学生に合わせた指導方法についてより具体的に示す必要があると思われる。私も昨年ご協力させていただいたが、保護者対象の全体説明会などを実施され、保護者を巻き込んだ体制の整備の充実がうかがえる。また同窓会組織の活性化がなされており、業界への大きな影響を与えていただくことを期待する。

事務局次長より、湖崎委員及び橋本委員については、本日、業務のため欠席されているが、事前に記の通り意見をいただいている。

(湖崎委員)

眼科業界の代表の立場として、視能訓練士の認知度の低さを懸念している。また眼科医 14,000 人に対し視能訓練士約 10,000 人と絶対数も不足している。女性が大半を占めており、家庭に入った視能訓練士が現場復帰しやすい環境を整えていく必要がある。学校としても、業界と連携し実態に合ったカリキュラムを構築してほしい。また高等学校に対する職業理解を高める活動に期待したい。

赤松教務部長より、本校は地道な活動により 1 年制・3 年制ともに定員を充足している。視能訓練士の認知度を高める為に、全国視能訓練士学校協会においても地道な活動を実施しているが、起爆剤は見当たらないのが現状である。人材バンクも存在はしているが、なかなか機能していないのが現状である。

(橋本委員)

先日授業を担当したが、こちらから言わなければノートを取らない、テストに関連する話になると、その項目に関しては興味を持つが、それ以外は興味を持つことが少ない。

私の病院では、新入職（医師、看護師等全て）全員 5 日間程度共同の研修を行い、職種関係なく同期としての仲間作りをさせています。上司に相談しづらいことも仲間同士で解決できるようにしています。また入職 2 年目の職員が 1 年目の職員の指導に当たり目標を定め、意識させ、3 ヶ月、半年など期間を決めて進捗状況を確認している。

１０．終了の挨拶

(宇野事務部長)

今回の委員会でいただいたご指導を十分にいかし、次回の委員会で報告させていただきたい。

今後とも一層のご指導をお願いしたい。

以上